

平成26年度 奨学後援会総会資料

学 校 の 概 況

平成26年5月18日

広島商船高等専門学校

目 次

学校の現況（校長 村上 定瞭）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
学生教育（教務主事 舟木 弥夫）・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1. はじめに	
2. 高専教育の充実に向けた授業改善の取組み	
学生支援（学生主事 上杉 鉛一）・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1. 就学支援	
2. 学生会関係活動支援	
3. 交通安全指導	
4. その他の規範意識を高める支援	
学寮生活（寮務主事 成清 勝博）・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1. はじめに	
2. 寮生の現状	
3. 今後の課題	
広報活動（広報主事 澤田 大吾）・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 平成25年度の主な取り組み	
2. 入学生の状況，情報の共有	
3. 今年度の取り組み	
進路指導—商船学科—（商船学科就職担当 河村 義顕，瀧口 三千弘）・・・・・・	6
1. 進路の概況	
2. 近年の求人・求職傾向	
3. 進路指導	
進路指導—電子制御工学科—（電子制御工学科就職担当 藤富 信之）・・・・・・	7
1. 進路の概況	
2. 最近の進路状況（5年間）	
進路指導—流通情報工学科—（流通情報工学科進路指導担当 岡村 修司）・・・・	8
1. 進路指導（学科の取り組み）	
2. 進路の概況	

学校の現況

校長 村上 定瞭

保護者の皆様には、如何お過ごしでしょうか。平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

本年度も学生諸君が素晴らしい活躍をしました。全国高専体育大会では、卓球部が男子団体及び男子ダブルスで優勝し、男子団体は3年連続で全国を制しました。全国高専プログラミングコンテスト・自由部門では、流通情報工学科チームの「娯楽感覚の認知予防リハビリテーションシステム」が特別賞と富士通賞を受賞しました。また、全国高専・小中学校向理科技術教材コンテストでは、流通情報工学科4年・高垣優菜さんが2年連続敢闘賞を受賞しました。流通情報工学科チームは、経済連合会・日刊工業新聞など共催の大学・高専キャンパスベンチャーグランプリ・テクノロジー部門で、中国地区大会最優秀賞および全国大会優秀賞を受賞し、この成果に対して国立高専機構・理事長から表彰されました。本校は、日本ニュース時事能力検定協会から、多数の本校学生が同検定試験に合格したことにより、優秀団体賞を受賞しました。これらの素晴らしい栄光は日々の弛まぬ練習や研鑽の成果であり、関係学生及び指導教員に対し心よりのお祝いと敬意を表します。

さて、本校は文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の選定校となり、地域自治体・住民・団体、離島関係者・団体などと連携し本校学生・教員が、離島社会の様々な課題に取り組み、地元大崎上島町のみならず我が国の離島の再生・活性化に向けた提案や開発を行うこととなりました。この大学COC（Center Of Community）事業は、人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核存在としての大学機能の強化を目的とし、平成25年度大学等52件採択の内、高専での単独採択は本校だけでした。地域の本校に対する期待がますます高くなっています。

今日、経済・産業活動のグローバル化は、人的資源の国際化（国際的素養を身につけた人材や国境を越えた人材の採用）を加速させています。この結果、採用の選考基準も国際標準となりつつあり、知識・技術に加えて、社会規範力、チームワークでの仕事力や英語力などがより強く求められる傾向にあります。

このような社会ニーズに対応できる人材を育成するため、本校では「規範力、チーム力や英語力」などを身につけた学生を育成するため、授業方法の改善や学校生活の指導強化に努めています。例えば、一般・専門科目を問わず英語による授業や道德教育の実施、通学マナーや学生らしい身なりの指導などです。

また、小中学生の理科・技術教育支援、障がい者・高齢者支援、地域の清掃美化などの活動に学生が積極的に参加するよう奨励しています。H25年度の社会貢献活動に参加した学生の延べ数は342名でした。本校としては、ほぼ全員の学生が、社会貢献活動を経験し、これらの活動を通してグローバル化社会に求められる能力（他者理解力やリーダーシップ力）を培うよう願っています。

以上、本校教育の現況を述べました。保護者各位には本校への深いご理解を頂きますとともに、本校に在籍するご息やご息女が立派に成長できますようご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学生教育

教務主事 舟木 弥夫

1. はじめに

高専教育は5年間または5年半の一貫教育を通して、グローバル化時代に対応できる実践的で創造的な技術者（社会人）を育成することが目標の一つです。

本校では「丁寧な教育、手厚い学生支援、きめ細かい進路指導」という方針のもと、恵まれた施設・設備と多くの専門的知識・技術を持った教職員によって実施される正課教育（授業・実験実習等）だけではなく、クラブ活動、地域と連携した様々な活動、学寮生活などを通して人間教育を行います。本校に入学したすべての学生が社会に出て活躍するために、ただ単に高度な専門知識を習得するだけではなく、「コミュニケーション能力」・「課題を発見し対応できる能力」など社会人としての基礎力を習得して卒業することを目標とします。

2. 高専教育の充実に向けた授業改善の取組み

(1) 語学力の向上（教員を含む）

昨年度は、「英語を用いた授業を全教員（非常勤講師を除く）最低1回行う」「定期試験に英語による問題を最低1問は出題する」という取り組みを後期から行いました。

今年度は、さらに回数を増やして非常勤講師を除く全教員で実施します。

(2) COC 事業を通しての教育

「地（知）の拠点整備事業」（COC）を通してコミュニケーション能力・問題解決能力を養うことにより、グローバル化時代の社会で活躍できる人材を育成します。

(3) 混合学級によるクラス編成

平成22年度の1年生より学科単位ではなく学科を混合した学級編成を導入しました。今年も、1・2年生が混合学級で、3年生以上は専門学科のクラス編成となります。

(4) 基礎実習の導入

他学科の実習を体験することにより相互の理解を深めるとともに、幅広い知識と経験を得ることを目的として、今年度より1年生に対し共通の実習を行います。

(5) 自主的な学習

語学、到達度試験、就職等の対策が自主的に行えるようe-ラーニングなどの自主学習教材と学習環境の整備を行っています。

(6) 習熟度クラス編成

1年から3年までの英語について各学年を習熟度別に3段階に分けて、下位のグループはさらに2分割して総計4クラス編成で授業を行っています。

(7) 留年・退学を出さないための対策

授業改善（公開授業・授業評価）、遅刻の多い学生への対応、下宿生への対応、学生支援室との連携などを実施します。

(8) 教育の質の保証

高専モデルコアカリキュラムの導入と本校のカリキュラムの見直しを行います。

学生支援

学生主事 上杉 鉛一

1. 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベータ横の掲示板に張り出すとともに電子掲示板で学生たちに案内しています。興味のある方は、学生を通じ、学生係で必要な書類等を受け取り、記入の上、期限内に提出するようにお願いいたします。（学生係は 0846-67-2023 です）

2. 学生会関係活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心に学校周りの掃除などのボランティアや商船祭などの学校行事、課外活動の支援などに取り組んでいます。学生会の活動やクラスマッチなど一週間の行事、商船祭の内容などを学生会新聞としてまとめ、各クラスや校内の掲示板に毎週水曜日に掲示するようにしています。

学生会の最大の行事である商船祭には、一般の来場者も楽しめるイベントや展示を増やそうと、2年生による学年展示、子供さんを対象にスライム作りコーナーなどを昨年度新たに始めました。また2012年度より一般の方を対象に大崎上島の特産品が当たる抽選大会を行っています。保護者の方にも特産品が当たり、喜んでいただけました。今年度も引き続き行う予定であり、また、来場された大人だけでなく、小中学生も楽しく参加できるような教室での新たなイベントも昨年度より始め、好評でした。

学生たちの心身の健全な発達のために16の体育系のクラブ、同好会、12の文化系のクラブ、同好会が放課後を中心に活動しています。各クラブからの予算要求書を学生会がまとめ、クラブ予算を作成しています。これで消耗品を中心に購入でき、クラブ活動の一助となっています。

全国高専体育大会で三連覇した卓球部をはじめ多くのクラブが全国高専体育大会や高体連の県大会に出場しました。文化部においても商船祭での発表などそれぞれの場で活躍しています。

3. 交通安全指導

登校の際には、学生たちの安全を守るため、また地域からの信頼を得るために、教員が通学路に立ち交通安全指導をしています。特に自転車の並列運転や二人乗り、傘さし運転をしないこと、一旦停止などの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。2013年の12月に道交法が改正され、右側の路側帯を自転車で通行できなくなりました。白水方面からは矢弓神社横で歩道がなくなる箇所がありますが、警察と相談し、登校時は右側を歩いて良いように許可されましたが、危険ですので十分注意するようご家庭でもご指導ください。

4. その他の規範意識を高める支援

本校の教育目標のAは「豊かな心、生きる力、規範意識の育成」です。具体的には「安心・安全」「思いやり」「ルールを守る」ことであると指導しています。自分を大切に、他人を大切にすることを指導しています。また「人は見た目が8割」とも言います。服装や身なりを見て、その人の中身を考える人は多いものです。本校の学生が一人でもシャツを出したり、ネクタイを緩めただらしない服装をしたり、髪を染めたり、ピアスをするなどの格好をすると、「広島商船の学生は」という風に、全学生を否定するような声を聞くことにもつながります。多くの学生はこのような服装や格好はしていませんが、一部の学生のために全員が悪く見られることがあるのが実情です。一人一人が広島商船の代表であることを自覚して行動するように、ご家庭でもご指導をお願いします。

学寮生活

寮務主事 成清 勝博

1. はじめに

4月の新寮生109人（1年生男子93人、1年生女子13人、3年生留学生2人、4年生編入生1人）の入寮にともなって、4月の寮生数は、男子387人、女子55人の442人（1年生106人、2年生99人、3年生96人、4年生73人、5年生68人）となり、全学生の約7割が寮生となりました。寮の定員は男子415名、女子66名の合計481名です。居室として使用できない部屋もあるため、現在受入可能な寮生数は、男子20名、女子9名で、寮はほぼ満杯状態になっています。

昨年度末には、新入生の部屋を確保するために、5年生に進級する寮生の内、23人を再入寮不許可（生活態度不良6人、通学可能2人、再入寮取り下げ7人、くじ引きによる条件付き不許可8人）にしました。条件付き不許可の8人の内、5人は通学または下宿をし、3人が再入寮しました。今年度は、寮生数がさらに増えたため、再入寮不許可となる寮生が、30人程度になることが予想されます。

2. 寮生の現状

(1) 改善された事項

窃盗（減少したが、まだ無くならない）、暴力、飲酒、異性寮への立入・引入、ごみのポイ捨て、部屋の使い方、無届外泊・点呼不参・外泊カード忘れ（女子のみ）、喫煙（未だに喫煙者はいるが少数）、公共物破損行為、深夜徘徊（フェンス設置効果）、病気以外の授業への遅刻・欠席、禁止物品の持ち込み及び使用、寮内における散髪、廊下への物出し、寮費・食費等の滞納などが挙げられます。

(2) 改善されない事項

交通マナーは良くなってきましたが引き続き指導をしていきます。その他の迷惑行為（音楽等の騒音、洗濯物の長時間放置、自転車の通路放置）などが挙げられます。

3. 今後の課題

(1) 寮生指導

比較的うまく行っている点・行きはじめた点につきましては、これをしっかり継続していきたいと思います。また、ここ数年低学年の問題行動が目立つようになってきました。今後も、基本的な生活習慣を含めて、今まで以上にきめ細かい指導が必要になってくるものと思います。

(2) 新たな課題

次の3点については、今後十分検討していきます。

- ①交通安全教育
- ②女子寮の整備について
- ③入寮希望者が定員を超えた場合の対策

広報活動

広報主事 澤田大吾

1. 平成 25 年度の主な取り組み

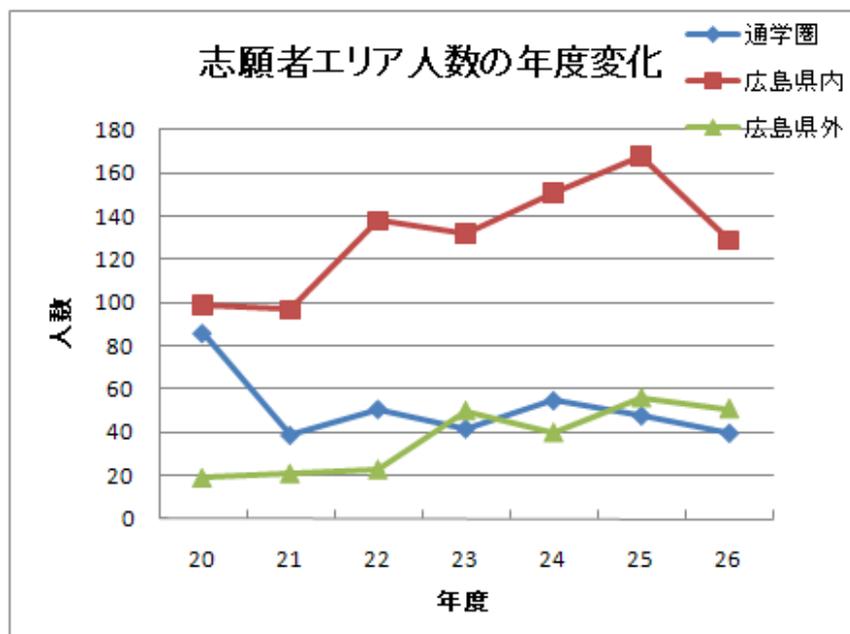
1年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

- ・ 4月 1年生アンケート調査を実施し、広報活動や学生指導に役立てました。大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力しました。
- ・ 6月 進路説明会（広島メルパルクで開催、約 20 校参加）を開催。呉・米子高専と 3 高専連携の広報活動を福山市で実施。ニュースレター（1号）を発刊しました。
- ・ 7月 商船高専合同説明会（東京、神戸、広島）に参加。広島丸の体験航海（3回）を実施しました。海フェスタ（尾道）に参加し、広島丸に 2,000 名を超える来場者を迎えました。
- ・ 8月 公開講座、全教員による中学校訪問、オープンスクール（第1回目）を実施しました。
- ・ 9月 県内中学校からの要望にこたえ、出前授業や進路説明会に参加しました。
- ・ 10月 呉エコフェスタに参加しました。ニュースレター（2号）を発刊しました。オープンスクール（第2回目）を実施しました。
- ・ 11月 帆船フェスタ 2012 広島、フェスティバル江田島に参加しました。
- ・ 12月以降 オープンスクール等行事に参加した中学生への情報発信を行いました。

2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 220 名になり、昨年から 52 名の減少となりました。通学圏・広島県外・県内とも減少傾向となりました。昨年のオープンスクールでは、過去最高の来校者を数えましたが、志願倍率には反映しませんでした。これは近年の志願者増の反動とも見受けられます。それを乗り越えるような広報活動を行う予定です。

しかし、本当の広報とは「本校の学生がいかにか成長するのか」であると考えられます。学校全体が学生を支援できる体制が必要です。また、今年の広報活動では学生主体の広報活動を全面に打ち出して行く予定です。2度のオープンスクールでは本校の学生を生徒や保護者に見ていただき、それで志願者増になるような学校にしていくことを考えています。



3. 今年度の取り組み

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネータ（特命教授）の適正配置
- (3) 広島県東部地区への広報活動強化
- (4) 校友会と連携した広報活動（県外志願者の増加）

進路指導—商船学科—

商船学科 就職担当 河村 義顕、瀧口 三千弘

1. 進路の概況

図1は商船学科に在籍する学生の近年における就職傾向を示しています。航海コースでは平均して6割が海上職、1割が運輸関係の陸上職、残り3割が進学となっており、機関コースでは6割が海上職、2割が製造業等の陸上職、残り2割が進学となっております。なお、未定が多くなっておりますが、これは近年増加している本校専攻科の学力試験受験者を含むためです。

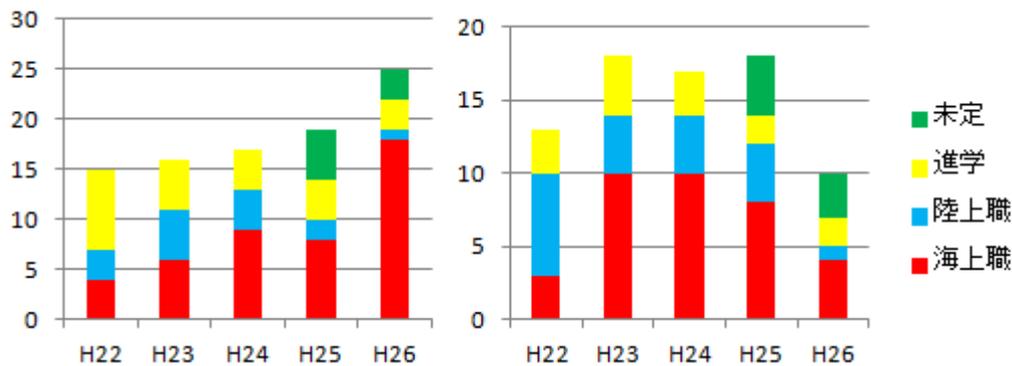


図1 近年の就職傾向(左:航海コース・右:機関コース)

2. 近年の求人・求職傾向

近年の求人の傾向としましては、外航船社では新3級制度による一般大学からの採用、内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質を求められています。また、特に海上職は早期退職者が増加していることもあり、学生に業務内容や社会人としての責任感はもちろんですが、協調性や社会性などのコミュニケーション能力が求められる傾向にあります。

年度によって学生の志向についてですが、外航を目指す学生は各年度で一定数存在しますが、全体的には数ヶ月にわたる乗船を求められる船社より、数週間オーダーの短期航海を好む傾向にあります。そのため、全体的に外航よりも内航船社に興味を示す学生が増加している傾向にあります。

これらの求人・求職状況に対応するため、商船学科ではカリキュラムの再編や補習の実施、個別指導に時間を費やし、学生の資質向上に努めております。

3. 進路指導

進路指導は企業と学生のミスマッチを防ぐため、3年次では業種や業界の情報提供を行い、就職をイメージさせることから始めています。4年次においては、会社訪問及びセミナーへの参加を促し、それと平行して国家試験受験の支援を行うなど、就職に関する情報入手方法と自己能力の開発指導をしております。また、近年の学生の弱点である履歴書の書き方のコツや面接時の対応などについては、個別指導を行っております。

基本的には、自分が希望する業界をある程度絞り込んでから自己分析を行い、それにマッチした会社を絞り込むようにしておりますが、学生が希望しそうな会社へ赴き、会社が求める人物像や資質と受験を希望する学生の情報交換を行い、学生の就職活動を側面から支援しております。また、長期休暇中に就職活動を行う学生に対して、オンラインで情報提供できるよう、就職情報サイトを立ち上げ、現在試験的に稼働しております。

進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科 就職担当 藤富 信之

1. 進路の概況

平成 25 年度も学生達の努力の結果、卒業生 36 名のうち 8 名が進学し、28 名が就職しました。就職先の職種としては、エンジニアとして機械、電気、情報、制御等の専門的な技術の仕事につきます。日本の経済回復を目的としたアベノミクスというデフレ脱却からの経済金融政策の効果が企業の採用人数の顕著な増加にすぐにつながることを期待するところではありますが、4 月 1 日の時点では求人数の合計 338 人、求人企業数が 318 社となっています。これは同時期での平成 25 年度の求人数 298 人、企業数 292 社に比較して 10%ほどの改善はみられますが相変わらずの厳しい状況にあります。新 5 年生(平成 27 年 3 月卒業) 49 名の進路希望は現時点では大学・専攻科などへの進学希望者は 6 名で、就職希望者は 43 名となっております。例年と比べて、就職希望者数が過去最大であるために、就職担当者を 2 名(吉田・藤富)に増やして対応しています。本年度につきましても、厳しい就職活動となっておりますが、特に、近道はなく面接試験や適性試験についてできる限りの準備と努力をして望むよう指導しています。また、低学年からの就職に対する啓蒙活動に力を入れます。

2. 最近の進路状況（5 年間）

(1) 就職

表 1 に過去 5 年間の平成 21 年度から平成 25 年度までの卒業生の主な進路先を示しています。卒業生の約 4 割は製造業に就職し、工場の生産ラインの設計や保守・管理などの仕事をしています。約 4 割はサービス業で、エレベータや冷凍空調機、OA 機器などのメンテナンスなどの仕事をしています。運輸・通信分野にも約 1 割が就職し、運輸部門では電気設備の保守点検、通信部門では携帯電話やネットワーク関連のソフト開発などの仕事をしています。また、電力会社へも就職しています。約 4 割の卒業生が、中国地区で働いています。

(2) 進学

大学等への進学者の割合は 1 割程度で、進学先としては、豊橋・長岡の両技術科学大学への進学がほとんどです。専攻科が設置されてからは専攻科へ進学する学生も多数います。

表 1 平成 21 年度～25 年度 卒業生の主な進路先

	内定進路先	人数	内定進路先	人数	内定進路先	人数
	アオハタグループ	1	JFE スチール	3	富士通九州システムズ	1
	旭化成	1	瀬戸内共同火力	2	ビューテック	3
	アズビル (山武)	1	綜警情報システム	2	フジテック	2
	アルメックス	2	ダイキン工業	3	古川製作所	2
	出光興産	7	中国電力	3	前川製作所	2
	NTT コミュニケーションズ	2	東芝マイカルシステムズ	4	メタウォーター	2
	エネルギーコミュニケーションズ	1	ディスコ	2	横河リソリューションサービス	3
	オムロン	1	東芝エレベータ	2	三菱電機ビルテクノサービス	1
	技研電子	5	デルタ工業	1	三菱電機姫路製作所	1
	KDDI エンジニアリング	5	日本オーチスエレベータ	2	ユニチカ	1
	コベルコ建機エンジニアリング	4	日本自動ドア	2	LIXIL (INAX)	1
	J R 東海	1	日本たばこ	2	リコー	3
	J R 西日本	1	日立ビルシステム	5	リコーテクノシステムズ	3
	豊橋技術科学大学	5	長岡技術科学大学	1	千葉大学	1
	琉球大学	1	専攻科	11	九州造形短期大学	1

進路指導—流通情報工学科—

流通情報工学科 進路指導担当 岡村 修司

1. 進路指導（学科の取り組み）

従来の5年学級担任に加えて1名の進路指導担当者を置き、学科内で連携を取りながら指導にあたっています。採用試験で特筆すべき点は、基礎学力や一般常識もさることながら、個人の性格(ストレス耐性やバイタリティ)を従来にも増して注視している点です。そのため、企業と学生とのミスマッチがないよう個別対応に相当の時間を割いています。

また、教授を中心として企業を担当し、通年にわたり企業訪問などの情報交換を行い、連絡を密にすることにより、信頼関係の構築に努めています。

特に、平成25年度の学生よりコース制（流通・ビジネスコース、情報コース）を導入しているため、それぞれのコースの専門性に応じた企業との連携に努めています。また、学生及び保護者の地元企業への就職ニーズが高いこと、学生を地元にかえす（地域貢献）ことの2つの観点から地元企業との交流も深めています。

学生の就職方法には、学校推薦（校長、教授推薦）、一般応募の2種類がありますが、地元志向及び業種の多様性から他学科に比べて一般応募を選択する学生も多くいます。このため、就業意識を高める試みとして、1）低学年時より就職講義の導入、2）4年生全員インターンシップに参加、3）OB・OG講演会、4）職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐に渡る就職支援プログラムを実施しています。

2. 進路の概況

平成25年度の卒業生は、31名（男子16名、女子15名）です。この内、就職・進学希望者は30名であり、就職21名、進学9名（進学率：30%）となっています。

就職先企業の職種の内訳については、図1に示すように、情報処理技術者が38%、物流管理者が19%、卸売業・小売業が19%、製造業が14%となっています。企業の所在地別で見ると（図2）、東京が圧倒的に多くなっていますが、地元の広島が昨年よりも増えています。表1に主な就職先企業名を示します。

他学科に比べると就職内定の時期が遅くなっていますが、これは一般応募による選考の長期化と地元企業の求人募集の立ち上がりが遅い事などが要因と考えられます。しかしながら、最終的には地元企業への就職も含め、内定率は100%に達しています。

進学者の内訳は、広島大学経済学部（1名）、神戸大学海事科学部（1名）、東京農工大学工学部（1名）、愛媛大学教育学部（1名）、豊橋技科大学情報系（1名）、長岡技術科学大学（1名）、広島商船専攻科（1名）、声優タレント系専門学校（1名）であり、経営・経済系の学科にも進学しています。

表1 就職先企業

情報系	物流系	その他
株式会社シーテック	日本貨物鉄道株式会社	イオンリテール株式会社
株式会社NTTPCコミュニケーションズ	川崎陸送株式会社	大和製罐株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	トナミ運輸中国株式会社	カトーレジャーグループ
株式会社 Y2S	シモハナ物流株式会社	株式会社ウェアーズ
株式会社富士通マーケティング		加納化成株式会社
東京エレクトロンFE株式会社		株式会社スペースエイジ
株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト		株式会社ディスコ
株式会社日立国際ホームソリューションズ		広島マツダ

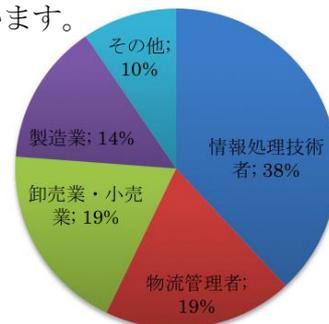


図1 就職先職種

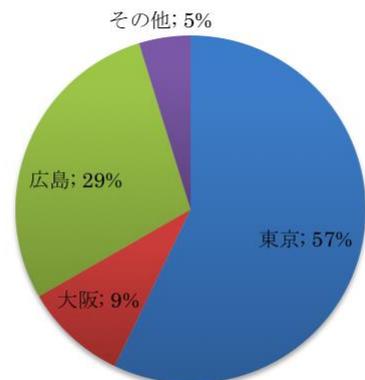


図2 就職先地域